

四十八 うらぶれし 蓼 鈴緒 奈美輝

(唄)平成七年度
(糸)平成十一年度

四十九 木枯しさん 蓼 胡文雄 史ま由
隅田川

平成七年度

五十 風神雷神 田家松 小峰
ほどほどに 田村てる

平成六年度

五十一 も白み 菊 蓼 胡茂 茂和香
じ

平成五年度

五十二 雪のあした 吏美 いち絵
連れてのかんせ 春竹 利昭

五十三 近江のお兼 松峰 照
松峰 照佐登

五十四 好きな人 扇 よし和
人様 は 扇 和塩

当日の審査員

蓼津留葉 栄 由利
菊地満佐 峰村好美佐

■平成二十七年十二月五日(土) 午後十二時開演

■東京証券会館ホール (地下鉄東西線・茅場町)
☎(三六六七)九二一〇

主催・公益社団法人 日本小唄連盟

<http://kouta-renmei.org>

第二十五回 若樹会

ご挨拶

師走の候、皆様お健やかに過ごしの事とおよろこび申し上げます。
扱、日本小唄連盟若手育成事業の一環として平成三年に発足致しました
小唄「若樹会」もお陰様で本年は第二十五回を迎え、これからの小唄界
を担う若手の登竜門として定着し益々充実した内容となりました。
日本小唄連盟は、この会が若い方々の研鑽の場となり、一人でも多く、
すぐれた演奏家が誕生することを念願いたしております。
皆様様におかれましては、この「若樹会」を温かくお見守り下さり、
格別のご支援を賜ります様、お願い申し上げます。

平成二十七年十二月吉日

公益社団法人 日本小唄連盟

一部（糸の審査・太字）

一	ほととぎす	田村 彌笑 大 仲 千恵子
二	いつしかに	千紫 巳恵佳 渡 辺 恵理
三	中洲の雨	井筒 治幸滋 西尾 由佳
四	おみくじの	扇 よし和 扇 和弓
五	勝名のり	蓼 時あや 蓼 佳壽樹
六	辰巳の左棲	田村 成美 田村 弓路
（唄の審査・太字）		
七	夏の川面	高橋 香代子 堀 小い幸
八	編笠	森 広珠世 田村 彌笑
九	青いガス燈	清水 みどり 堀 小い幸
十	目に青葉	井上 紀恵 田家松 小峰
十一	向う通るは	原田 好 田村 彌笑
十二	空ほの暗き	丸山 京子 春竹 利香
十三	よりを戻して	鳥羽 由記 春竹 利葉
十四	河 水	扇 美晴 春竹 利香
十五	主さんと	田村 茂美 田村 弓路
十六	上 汐	井筒 寿美紫 井筒 寿美
十七	梅 が 香	井筒 幸一 井筒 治幸滋

二部（若樹賞受賞者・太字）

平成二十六年		
十八	女夫船頭 粹なからす	菊岡 弘 菊岡 弘優
十九	清 心	田村 彌笑 田村 笑多満
二十	初 雪	長生 松代 長生 千代由
二十一	凍る夜 いざさらば	本木 寿以和 吏 美いち絵
二十二	別 れ 雁	蓼 満ゆ佳 蓼 胡満利
平成二十五年		
二十三	あだな笑顔	小唄 幸三希 小唄 幸三由
二十四	三吉小室節	扇 和塩 扇 よし和

平成二十四年度

二十五 たまにうれしき
こりすぎりや 若宮 三千弓
若宮 弓鳥貴

二十六 上野の鐘
気に入らぬ 春竹利央
春竹利昭
替春竹利保

(唄)平成二十三年度
(糸)平成二十五年

二十七 みよし野 花菱朝如
花菱朝佳

平成二十二年

二十八 あの日から 井筒幸和
井筒 治幸滋
替井筒 幸一

平成二十一年

二十九 二年越し 花菱朝佳
花菱朝如

(唄)平成二十一年度
(糸)平成二十五年

三十 ぐちを舞う
せじで丸めて 蓼 競文
蓼 競文芳

平成二十年

三十一 めぐる日 春竹利保
春竹利紀
替春竹利央

三十二 願ほどき 小唄 幸三由
小唄 幸三希

(唄)平成十八年度
(糸)平成二十五年

三十三 梅 月 夜 長生恭帆
長生 松帆

平成十六年

三十四 ほんのりと 蓼 時あや
可愛いお方 蓼 胡満佳乃

三十五 散るはうき 和敬梅由
首尾も二人 和敬 由三郎

三十六 仇情八幡祭 常磐とも米
常磐 まさ米

平成十五年

三十七 虫づくし 蓼 房まさ
蓼 房まさ香

三十八 今朝の別れ 長生松代
くどき上手 長生 代一郎

平成十四年

三十九 年の瀬や 菊岡弘多枝
せかれせかれて 菊岡 弘
替菊岡 弘香

四十 涙かくして 松峰小玉
どうぞ叶えて 松峰 照

平成十三年

四十一 富士見西行 松峰照美
色とえ 松峰 照

平成十二年

四十二 三千歳 田村彌笑
正 千夢 田村 てる

平成十一年

四十三 助 六 和敬由三郎
田 吾作 和敬 梅由

平成十年

四十四 和尚吉三 松峰弥生乃
和敬ですもうと 松峰 照

平成八年

四十五 夜やふけてまこと 春竹利香
オーイ山王 春竹 利保

平成八年

四十六 上 汐 井筒綾奈美
井筒 綾美佐

四十七